



第42回「おかねの作文」コンクール

働いたお金の価値

新潟県・糸魚川市立糸魚川中学校 3年 清水 楓

私の家は6人家族です。父は会社員、母は医療事務、祖父は販売業をしています。そして、小学生の妹、家事をしてきている祖母がいます。毎年、夏休みになると、おじとおばが共働きのため、いところ2人を家であずかっています。

今年の夏休み、私は、体調の良くない祖母にかわり、毎日のみんなのお昼ご飯を作ることに決めました。毎朝、母と相談しながら、メニューを考えていました。みんなの好きな物、嫌いな物などを考えながら、メニューを決めることは、思った以上に大変でした。いつも作る時は、大抵自分の分しか作らないことが多いので、一度に5人や6人分の料理を作ることは、とても大変だったし、疲れる作業だなと思いました。同時に、いつも家族分のご飯を作ってくれていた、母や祖母の大変さや、ありがたさを感じることができました。作ってくれることをあたり前と思い、作ってくれた物をあたり前のように食べるのではなく、一つ一つちゃんと感謝しなくてはいけないということを、自分でやってみて、改めて知ることができました。

そして、夏休みが終わる頃に、祖母から、「夏休みの間、おばあちゃんにかわって、毎日みんなのお昼作ってくれてありがとうね。ほんとうに助かったよ。これは少ないけれど、おばあちゃんからの気持ちだよ」と言って、私に5,000円のおこづかいをくれました。この5,000円は私が初めて自分で働き、もらったお金です。祖母からももらったとき、普段もらうおこづかいとは違い、何か重みがあるような気がしました。私は今年、おとし玉で、5,000円をもらいました。そして、今回もらったお金も5,000円です。どちらも同じ5,000円ですが、自分で働いて得たお金は、簡単には使えないような、価値があるお金だと感じました。

今、私は、必要な物やほしい物があると、自分のおこづかいから出したり、その都度、買ってもらったりしています。そのお金というのは、両親が朝から夕方や夜まで、一生懸命働いて得たお金であるということを強く意識したことはありませんでしたが、今回、自分が働いて得たお金を手にしてみて、改めて、そのお金のありがたさが分かりました。私が着ている服も、食べているお菓子も、使っ

ている照明やクーラーなどの電気代も、給料としてもらう限られたお金の中で、毎月やりくりをしながら払ってもらっているのです。簡単にさいふからお金を取り出して払えるわけではないのです。

私たちの暮らす今の社会では、お金がなくては生活していきけません。なので、そのお金をムダ遣いしてはいけないと私は思います。例えば、電気のつけっぱなしや、水の出しっぱなし。つけている間中、出している間中、電気代や水道代はかかります。使っていないのに、消していなかったり、出しっぱなしにしていれば、当然お金のムダ遣いになり、そして、地球の環境にも悪いです。

今、私がもらっている、両親が一生懸命、働いて、もらった重みのあるお金を、ムダ遣いをせず、自分のためや、相手のためになるような、いきたお金の使い道をするのが、お金を大切にすることだと思います。そしてこの先、私が社会人となり、自分で働いたお金を、自分で使えるようになったとき、そのお金の重みや、物の価値感がちゃんと分かる大人になりたいと思います。それには、この夏休みに祖母からもらった、「自分で働いたお金」の価値や、もらったときの喜びを、ずっと忘れずにいきたいです。

